

中国歴史班

雲南における漢人移民の流入と会館

増田厚之（学習院大学院人文科学研究科史学専攻博士課程後期）

キーワード：会館・商業・環境改変

The Influx of Han Chinese Immigrants and Merchant Guilds in Yunnan

MASUDA Atsushi (Doctor Student in the History Course at Gakushuin University)

Keyword: merchant guilds, commerce, Change of environment

要旨

漢族商人が雲南省で商業を行なう際にその拠点としていたのが会館である。雲南省蒙自県に存在する江西会館に関する碑文を見てみると、会館には不法占拠という問題が存在していたと記録されていた。会館は、自らの活動によってその経営資金を獲得していたが、同時にその資金を狙って会館を簒奪せんとする遊民の標的ともなっていたのである。これは、漢族商人による商業活動の大きさや、商品開発の積極性を示すものであり、大規模な商品開発が環境に大きな負担を強いていたことを表す一つの証明である。

1. はじめに

今年度の調査においては、自ら調査・発見した碑文に加えて、中国雲南省紅河州蒙自県文物管理所が調査した碑文資料集、『蒙自文史資料』を発見した[蒙自県文史資料委員会 2003]。この碑文資料集には、採録場所や調査日時といった基本情報が全く掲載されていない上に、校注がほとんどなされていないものの、商業において重要な役割を果たしたと考えられる会館の碑文が多く含まれていた。この内、江西商人が建設した会館（碑文ごと呼称が異なるため、以下「江西会館」と呼称する）に関する碑文が五基、福建商人が建設した会館（碑文の記載から、以下「天上宮」と呼称する）に関する碑文が一基、掲載されている。蒙自県は、雲南省の中でも南方に位置しているが、会館の設立数は、雲南省で1、2を争っている[藍勇 1997:527]。蒙自県の隣にある箇舊からは、銀・錫をはじめとした鉱産資源が特に豊富であり[張増祺 2000:104-114,199]、それゆえに、商業拠点としての会館も数多く存在していたと考えられる。明代末から鉱産資源、特に銅の不足は非常に深刻であり、一時は、古銭を鋳直して新しい貨幣を鋳造するという事態にまで発展したことを考えれば、蒙自・箇舊の鉱産資源は、魅力的かつ重要な商業市場であるといえる。しかし、商業的にはプラスに働く鉱山開発も、環境という点において考える場合には大きなマイナス面の影響が浮かび上がってくる。すなわち、それまで少数民族が細々と行なっていた採掘と異なり、漢人が入り込んで新たな市場を開発することにより、それまでとは比べ物にならない大規模な採掘が行なわれるようになる。それは、大規模な生態改変・環境破壊を引き起こし、様々な悪影響をもたらす結果となった。このように、雲南省以北から移ってきた漢人が雲南省で行なう商業活動は、環境面では大きなストレスをかけることになってしまった。今年度報告書では、商業市場開発とそれに伴う環境破壊の基盤となった会館について述べ、この調査で新たに発見した、蒙自県の会館における不法占拠問題について言及したい。

2. 蒙自県会館の様相

蒙自県には、先に述べたように非常に多くの会館が存在している。碑文から確認できるものの中で最も古いも

のは、正確な年代こそ不明であるが、江西会館の一つである「蕭公祠碑」に記載された明代末というものである。江西商人に関する先行研究を見ると、雲南省に入って最も早く商業活動を始めたのは江西商人であると言われていた [方志遠 1992:97]。雲南省の中でもかなり南に位置している蒙自県において、明代末に江西会館が建設されているということは、それを裏付ける証明の一つと言えるだろう。一方、福建商人は、康熙年間の時点で既に蒙自県に進出して商業を開始していたことが「福建天上宮碑」から確認できる。蒙自県が中国からベトナムへ抜ける主要交通路の途上に位置しているとは言うものの、雲南省の南という地理的条件から見れば、比較的早い段階から商人が入って活動を行なっていると言えるだろう。

蒙自県城内で最も多い会館は、江西会館である。この江西会館碑文を確認すると、雲南省以外の地域における会館研究には存在しない、会館の不法占拠という問題が存在している。この碑文に基づいて、江西会館の不法占拠事件を見ていく。「蕭公祠碑」「奉縣主示禁遊民占宿碑」の内容を確認してみると、江西会館を占拠したのは、江西省内の異なる府出身者、「無職の遊民」、そして「遠来の遊民」であった。この「遊民」というのは、辞書的な意味と細部のニュアンスが異なるが、「無職」「遠来」という言葉があえて使われていることを考えると、この碑文では、「本籍地（ここでは、江西省を指す）を離れて流れてきたもの全般」を指していると思われる。つまり、会館占拠の犯人は、江西省出身で、蒙自県及び隣の箇舊で採掘を行なっているものか、同省異県または異なる省出身の商人であった可能性が非常に高い。しかし、確実な実証は未だ終わっておらず、別の機会での解決を図りたい。

占拠方法は、江西省出身者であると称して江西会館に入り込み、仲間を集めて力づくで占拠する場合と、江西会館の建設や修築の際に寄付を行って自らの権利を主張しようとするものの二種類が記録されている。前者の場合、江西会館に付随する宗教施設で祭祀を行うということを名目に入り込む場合と、江西省出身者であると名乗って会館に宿泊する場合とが碑文に記載されている。先に述べたとおり、会館占拠を行なうものは、江西省出身で、蒙自県及び隣の箇舊で採掘を行なっているものか、同省異県または異なる省出身の商人であった可能性が高いが、他省出身者だけでなく、同じ江西省出身であるにも関わらず、異なる府の出身であるものが会館占拠を行なっている。ここから、会館利用者における「同郷」というものの認識が非常に重要かつはっきりとしたものであり、府・県単位で会館が建てられている場合には、同省出身者が建てた会館であるからといって無条件に利用できるわけではなかったことが確認できる。

不法占拠の目的は、「蕭公祠碑」によると「店舗の賃貸料を奪わんと図っていた」とされている。同碑文を見ると、会館運営の資金は、店舗・旅館の賃貸料および農地の貸付が主であると書かれている。江西商人研究でも言われている通り、雲南省に存在する江西商人は、清代初期、雲南省内の商業利益を一時的とはいえ独占していた時期がある。そのため、他省で活動している江西商人よりも大きな利益を生み、他省では存在しなかった大商人が現れていた [方志遠 1993:57]。したがって、旅館・店舗を建てるための土地を多く購入でき、会館の規模・資産も他省のそれと比べて大きかったと言える。それゆえに、会館運営に関しては、非常に細かく規定が定められており、「江西五府會館條規碑」には、経営・管理者の選挙方法、資金を使う際の注意、江西会館に援助を求めてきた者への対処といった内容が細かく記されている。ここからも、雲南省の江西会館は、資金的に規模が大きく、遊民に狙われる対象であったことがわかる。

3. おわりに

このように、蒙自県では、他省地域の研究に見られない会館の不法占拠という問題が存在していた。会館自体は、商人からの援助をほとんど受けておらず、会館経営のための資金を自らの商業活動でまかなっていた。会館及び商人が行なっている商業活動は、ともに大きな利益を挙げていたことがここから見てくるだろう。このことから、それだけの利益をあげられるだけの積極的な商品開発、市場開発が行なわれていたことは容易に想像できる。これまで、少数民族によって行なわれてこなかった大規模な開発は、自然環境に対して大きなストレスを強いるものであったことは間違いない。今後は、雲南省に入って最初に商品作物として注目された茶、薬材といった個々の生産品に注目する。そして、その開発過程の中で、どのような環境破壊がもたらされたのかという問題について、明・清代にわたる歴史的変遷を追っていく。

文献リスト

単行本

張增祺 2000 年『雲南冶金史』雲南美術出版社

蒙自県文史資料委員会 2003 年『蒙自文史資料』第七輯

藍勇 1997 年『西南歴史文化地理』西南師範大学出版社

論文

方志遠・黄瑞卿 1992 年「江右商の社会構成及経営方式 明清江西商人研究之一」『中国經濟史研究』第一期 :91-103

方志遠・黄瑞卿 1993 年「明清時期西南地区的江右商 明清江西商人研究之三」『中国社会經濟史研究』第四期 :54-62

Synopsis: The Hui-guan (merchant guild) was the base from which Han Chinese merchants practiced commerce in Yunnan. A stone inscription concerning the Jiangxi Hui-guan in Mengzi Prefecture recorded the case of an illegal occupation of the guild premises. The Hui-guan, which covered its own running expenses by its own activities, attracted the unemployed people who sought to rob the funds of the guild. This shows the size of the commercial activities of Han Chinese merchants and their aggressiveness in developing commodity trade, as well as providing proof that large-scale commercial development placed a great burden on the environment.